

会議録

会議の名称	社会教育委員の会議（10月定例会）会議録
開催日時	平成22年10月22日（金曜日）14時00分から16時10分まで
開催場所	保谷庁舎3階第2会議室
出席者	委員：濱崎議長、松嶋副議長、稲葉委員、小川委員、齋藤委員、白木委員、須永委員、本領委員、宮崎委員（五十音順） （欠席：岡村委員、倉島委員、本田委員、山田委員） 事務局：神田係長、諸岡主事、山中主事
議題	(1) 提言について (2) その他 1 社連協全体交流会について 2 関東甲信越静社会教育研究大会（11月26日～27日）の参加について 3 地域教育フォーラム（11月27日）への参加について
配布資料	1 第4ブロック研修会実施（概要）報告 2 平成22年度社会教育委員活動記録の編集について 3 平成22年度関東甲信越静研究大会参加予定 4 セシオン杉並（施設のご案内） 5 地域教育フォーラムチラシ ・みんなの生涯学習 No. 101号 ・西東京市図書館だより 第39号
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
平成22年9月定例会議、臨時会の会議録を承認する。	
<p>提言について</p> <p>○議長：</p> <p>提言の検討に入る前に先日の第4ブロック研修会の感想を1人ずつお願いしたい。ご挨拶いただいた阿部副会長が帰り際、第4ブロックのテーマに沿った発表で、白木先生の講演も良かったと感心されていた。あと準備も整っていたというおほめの言葉を頂きましたので報告いたします。</p> <p>○委員：</p> <p>事前準備の時は参加できずお役に立てなかったが、当日は具体的な事例を聞かせてもらって事後にも活かせる良いお話が聞けた。これからの社会教育という観点からも参考になるところがあったと思う。市内での取り組みも地域で差があると感じた。学校も地域に根ざしていかなければならないという、今後の方向性の見える話が聞けた。</p> <p>○委員：</p> <p>たいへん立派な研修会だった。2つの事例発表を他市から来た方も熱心に聞いていた。特に地域生涯学習事業は他市にあまりないので興味をもたれたのではないかと思う。この</p>	

研修会は5年に1度回ってくる。前はこもれびホールで行ったので、今回の会議室は狭いかなと思ったが、広さもちょうどよかった。皆さんのおかげで事前の機器チェックもでき、滞りなく終えることができた。

○委員：

司会をやらせてもらった。皆さんの協力で時間通り終わらせることができた。話を聞くうちに人材をどう確保するか、核になる人をどう探しだしネットワークの中に取り込むかが一番難しいと思った。

○委員：

2つの事例発表がすばらしかった。具体的な実践活動として報告してもらうのは非常に貴重だった。その後、白木先生の講演でまとめていただき、ねらいどおりの組み立てになったと思う。

○委員：

最後にまとめの話をさせて頂いた。事前の事例がしっかりしたものだだったので安心してやらせてもらった。ちょっと会場が暑かった。最後は、時間の関係で課題をあげてネットワークの弱点を3つ上げて終わったが、今後、社会教育委員の会議の中でその課題の克服の仕方を深めていければと思う。

○委員：

生きた事例ということで聞かせてもらい、学んだことを私たちはどう活かしていけばいいのか考えさせられた。どう地域に根ざしていけるのかなと思いつつ、やはり人ありきで始まり、継続されているので、自分も微力ながら関わっていきたい。

○委員：

しらうめネットワークの一員として、ずっと活動に関わっているが、今回このような機会を与えてもらい発表ができて良かった。高橋さんには今回の研修準備のために何度も足を運んでもらい、とても感謝している。今回の研修会を通して、こういった活動をどう次世代につなげていくか、それをどう作っていくか、私たちは黒子になって応援していければと思った。

○委員：

当番市になるのは大変だと思った。事例を聞いて、ネットワークづくりは、個人の力によるところが大きいと感じた。発表者の魅力的なパーソナリティを伝えることができた研修会だったのではないだろうか。

○議長：

これからのネットワークをどう作っていけばいいかという具体的な例を聞かせてもらった。第4ブロックの当番市ということでこういった研修会を企画運営することができ、とてもいい経験になったと思う。

以上、皆さんに感想をいただきました。次に今回のブロック研修会記録の編集について事務局から報告していただく。

○事務局：

資料2のとおり、第4ブロック研修会報告を平成22年度社会教育委員活動記録に載せるようになっている。報告のページ数は、表紙・写真（2点以内）も含めて6ページ以内となっている。原稿の締め切りはまだ具体的に依頼がきていないが、1月頃になるのではないかと思う。

○議長：

次に提言についてだが、この提言の提出はいつまでか。

○事務局：

期限内ですので来年の6月末までをお願いしたい。

○議長：

提言のまとめ方についてだが、小委員会を作るかとか、最終的には起草委員が必要かと思うがどういったかたちで進めていったらよいか。テーマは「全員参加の地域づくり」ですが、いかがですか。検討課題のひとつには担い手の育成の問題があると思うが、その状況は地域によっても格差がある。

○委員：

19ある小学校施設開放運営協議会には、盛んなところ、盛んでないところがある。どうして盛んでないのか。盛んでないところでもこういった活動をしているとか、現状を知るために、調査をしてデータを集めるのも1つの方法ではないか。

○議長：

皆さんの住んでいる地域の活動はどうか。

○委員：

地域生涯学習事業は、保谷小などやめたところもある。

○委員：

住民が一生懸命やらないと学校も協力してくれない。

○委員：

学校に関していたときは現状がわかるが離れてしまうとわからない。地域生涯学習事業数も少なくなってきた。世代の変化、続けていくのが難しくなっていく。

○委員：

社会福祉協議会の事業になるが、ふれあいのまちづくりの取り組みは各学校にあるのか。

○事務局：

各学校区で取り組まれていると思う。ふれあいのまちづくりは地域で組織を作ることから始める。まず組織を立ち上げ、そこから何をやっていくかを皆で考えていく。地域生涯学習事業は先に事業をやろうという事があって、その事業を担ってくれる組織づく

りをどうするかという進め方になる。社会教育活動団体も、自分たちのやりたい活動から集まった組織なので、そこから地域づくりに向かっていくのは難しい。高橋さんの活動を聞いていると、まさしく社会教育の活動そのものではないかと感じた。

○委員：

公民館の役割も、人が集まってやりたいことをする場を提供し、それをどう地域に還元していくかということだろう。

○委員：

社会教育を意識しないで地域でやってきたことが、結局は社会教育活動になっていたということがある。

○委員：

社会教育から入っていくと実態が掴めなくなってしまう気がする。確実に地域で起きていることは、ふれまちの取り組みや地域生涯学習事業の実践だろう。そういったことを積み上げていくことが社会教育なのだという事に取り組んでいるわけではなく、必要があって自然発生的にみんなでやろうということによって身近なところからやっているのが現実である。ちょうど実践活動を勉強したばかりなので、もう少し勉強していると先が見えるのではないか。

○委員：

どちらの活動も結果として社会教育に何らかの貢献をしているという事は、今回の2つの事例からみえてきたと思う。また、どちらの事例でも後継者が必要だという課題が出てきた。人がいなくなったら続かなくなるという事で、人がいなくなりできなくなってしまったという状況でいいのだろうか。担い手以外にも何かこういった事を継続していく要素がどこかにないのだろうかと考えている。そういった事について皆さんと一緒に考えていきたいと思う。

○委員：

ふれまちと地域生涯学習事業の違いが手掛かりとなっているのではないか。個人的には高橋さんにお会いしてもっと知りたくなった。地域生涯学習事業の方も見てみたい。実際の取り組みを見せてもらって、実践的に社会教育について学びたい。

○委員：

地域生涯学習事業が無くなった施設開放運営協議会に関わっていた。なぜなくなったかという、施設開放運営協議会としては遊び場開放に力を入れるという理由からだ。組織運営も長期にわたっていくうちに閉鎖的になり、決まった人が決まったことしかやらなくなった。研修会で講師がおっしゃっていた権限と責任の所在があいまいになり、新しいことをやろうとしても、どこで声をあげてやるのかということになる。やりたいと思っても誰に言えばよいかわからない状態になる。誰かが見返りを求めず、私もできることからやってみようという気持ちから、自然と入っていくことで広がっていく。白木先生が言われたように教育基本法の13条の中に、連携協力が明文化されていることは大事だと思う。社会教育の視点から私たちが調査をして、同じような理由で事業がなくなった事例とかを見ていけたらいいのではないか。

- 委員：
施設開放だけやって生涯学習事業をやめるところが増えている。
- 事務局：
現状でいうと地域生涯学習事業をやめていくという状況があるが、その原因をきちんと吟味し精査することが必要だろう。
- 委員：
地域生涯学習事業は衰退しているのか。
- 事務局：
事業数や参加者数で評価するのか、事業の評価は難しい。事業実施には負担があるという声は事務局に寄せられているが、事業内容を知る限り、それぞれの運営協議会では創意工夫をされ、熱心に取り組まれていると思う。
- 議長：
今、小学校は子どもが卒業すると関わりがなくなる。何か地域の人たちが集まるようなことがあれば、そこから広がっていくのではないかと。ネットワークづくりには、調整役の人が必要だと思う。会社というような組織ではないので、強いリーダーシップではみんなついていかない。人としてのふれあいをどう作っていくかが社会教育の視点の1つだろう。
- 委員：
PTA活動が嫌だというお母さんはあまりいないが、うまくやっていけるだろうかというわずらわしさがああり、役員になりたいという人は少ない。地域の組織の中で調和をとっていくのはとても大変な事だと思う。
- 事務局：
提言をまとめていくために、どういう事をどういう方法で積み上げていくかを考えていく。そのため、調査をすとしても、先日の事例の中でわかったことを踏まえて、さらに何を調査すべきか考えていく必要があるだろう。まずは今回の研修から分かった事と分からなかった事を整理されてはどうか。
- 委員：
その学校と地域の人はどう思っているのかを知る必要があるのではないかと。
- 委員：
地域の人々の意向を把握するのは難しくないか。
- 委員：
分かった事が、地域作りの成功に必要なものになると思う。しらうめネットワークに参加しているが、地域のお母さん方も仕事をされていて非常に忙しい方が多い。もちろん学習活動も大事だけれども現実の生活のほうがかもっと大事という人が多い中、しらうめネッ

トワークがここまで成長してきたのは、安心安全の町づくりという防犯に力を入れた取り組みをしたということにあると思う。やはりみんなどんなに忙しくても子どもが安全に学校から帰ってきて欲しいという気持ちが強い。不審者情報が全団体へFAXで流れてくると、地域全体で不審者に対する意識が持てる。学習は大事だし、学びたいと思うが、やはり一番は命だったり、わが子の安全だったりということではないか。最近、空き巣が非常に増えてきている。きれいな町には犯罪が少ないということから、美化運動も必要だと言う事で活動が広がっていく。忙しいお母さんも家にいるお母さんも地域の中で1つになれている。活動の目的が一緒という事で成功した例だと思う。

○委員：

地域生涯学習事業に参加している人たちもそれなりのふれあいはあると思うが、どうしても他の事業とのふれあいや広がりにはあまり持てないだろう。

○事務局：

地域生涯学習事業では、子ども向け事業が多いが、大人向け事業もいくつか取り組まれている。地域生涯学習事業のねらいの1つには、事業をやろうということで集まった人たちが、関わっていきながら輪を広げていくことがある。事業をやるということは人と人の関わりを創っていく仕掛けでもある。内田さんはメンバー全員でやること、みんなで関わっていくことが醍醐味だとおっしゃっていた。しらうめネットワークで「防犯」という事がみんなの共通の活動目標になったように、何かの事業を企画し、実施していくことが、1つの目標になって地域の方たちが寄り集まってくる。事業の実施も1つの成果だが、そこから二次的に発生する出会いや関係性に期待するところがある。社会教育では、その過程全体を大切にしていく。

今回の提言のテーマは非常に幅が広いので、どこか絞り込んで検討していく事が必要だと思う。例えば、2つの事例から地域づくりには担い手が大事だと言う事が出てきたと思うが、地域生涯学習事業での担い手に絞り込んで考えてみると、そこでの人たち、そこでの状況をもう一度実態調査をして、そこから担い手が大切だと分かったら、担い手をどう育てるのか、どう支援していくのか、担い手がない場合には組織論でどうやったらいいのだろうかというところのヒントなり、施策を考えていくという、イメージである。

○委員：

地域生涯学習事業というのは、かなり難しい。ふれまの活動は地域の課題に即していてやりやすい。地域生涯学習事業は何をどんなふうにやればいいのか手探りで、ニーズが掴めないまま始めてしまっているのではないかな。

○事務局：

企画委員の方たちは何をやろうか、やればいいのかというところで苦労されているが、やりたいものを企画していけるという事もある。

○委員：

例えばふれまの担い手たちが集まって事業を実施するときに連携していくことも可能ではないかな。

○委員：

しらうめネットワークのような活動は他の学校にもあるのか。

○事務局：

地域安全連絡会のようなものは学校を中心に他にもあるのではないかと思う。他の学校の地域安全連絡会の事例調査は、参加している単体組織がどう繋がっているのか、どの程度広がっているのかといった組織作りの取り組みが参考になるのではないだろうか。

○委員：

長い社会教育の歴史でいうと、元々しらうめネットワークのように地域活動とか公共のためといったことを目標にしている組織・活動が多かった。戦前は、戦中教育や戦中の活動に社会教育も参加していくようになる。戦後、教育基本法ができて個性の時代だということになり、さらにその後生涯学習の考えが入ってきた。個人のニーズでやりたいことをやって、同じ目的とか趣味・趣向を持った人たちが集まってやりましょうという学習活動が主流になってきた。とはいっても地域のため、世の中のため、公共のためといった事も見逃せない取り組みである。今回そういった2つの事例がでてきたが、今はそういった事業のバランスをどう保つかという状況になっている。

○委員：

今はどちらが主流とかもないのか。

○委員：

やはりどちらかにも偏ってはいけない。教育基本法の12条で社会教育は「個人の需要と社会の要請」に答えるものという言い方をしているが、両方が大事でバランスを保ちましょうということなのだと思う。あまり偏ってはいけない。

○事務局：

公的社会教育としてどうこの2つに答えて行けば良いのか。社会の要請に個人のニーズが注目しなくなってきたのであれば、公的社会教育の中では、そういった部分を大事にした支援策が必要になってくるともいえるだろう。

○議長：

最終的な提言のまとめの方向は、担い手と組織の存続に必要なことは何であるかということになるだろうか。

○委員：

最終的なことはまだ決めないほうがいいのではないか。まずは現状の把握と担い手の人に意見を聞くところから始めてはどうだろうか。

○委員：

成功例は2つの事例でわかった。わからない事はどうすればいいか。

○議長：

現状把握ができる方は次回までに自分の地域等で調査していただきたい。

○事務局：

各委員が、分かった事、分からない事、知りたい事などを個々にまとめて持ち寄り、次回報告するという事によろしいか。

○全委員：

異議なし

(2) その他

1、社連協全体交流会（11月26日）について

○事務局：

関東甲信越社会教育研究大会の11月26日の午前中、10時から11時15分まで都市社連協の全体交流会が開催される事になったので、その日は午前中からの参加をお願いしたい。タイムスケジュールは10時10分から表彰式が始まり、西東京市では前委員の松本さんが今回表彰される。表彰式の後に各ブロックからの研修会発表が10時40分から始まる。5ブロックあるので各ブロック5、6分程度の発表となる。第4ブロック研修会の発表ということで、濱崎議長に配布資料1に沿って発表していただく。次回また詳しい案内がきたらお知らせする。

2、関東甲信越社会教育研究大会（11月26日～27日）の参加について

○事務局：

会場の案内と分科会の内容については、配布資料3、4のとおり。第2分科会に参加される委員は1日目と会場が違うので注意をお願いしたい。後日、案内が送られてくると思うので、次回会議でまたお知らせする。。

3、地域教育フォーラム（11月27日）への参加について

○事務局：

配布資料5のとおり、27日の午後に東京都主催の社会教育委員対象研修会として地域教育フォーラムが開催される。例年1月頃に開催されていたが、今年度は11月開催となった。その日は午前中の関東甲信越社会教育研究大会に引き続き、午後から東京都主催のこの研修会に参加していただきたいという連絡がきている。出欠については次回会議で確認をしたい。

○議長：

以上で本日の社会教育委員の会議（10月定例会）は終了する。

※次回会議 平成22年11月19日（金曜日）午後2時から